

令和4年度 六浦地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

高齢化率が33%超と区内でも高く、独居高齢者、高齢者のみ世帯も増加している。核家族化も進み、8050問題に象徴される課題を抱える家族も散見される。子育て世代は夫婦ともに就労しており、子どもを含め、高齢者、障害者等、地域に暮らすすべての人たちが、孤立することなく地域の一員として、自分らしく支え合って暮らせるよう、地域福祉の拠点として、地域ケアプラザの「場」を生かしながら、地域特性や課題を町内会はじめ関係機関と連携し解決していく必要がある。

今年度の重点的な取組

新規
継続

—具体的な取組内容—

- | | | |
|--------------------------|---|---|
| <input type="checkbox"/> | ■ | 町ぐるみで認知症や課題を抱える家族を支えあう風土を醸成するため、町内会単位での予防啓発講座、地域の実情に応じた介護予防・認知症予防の自主活動を推進し、元気づくりステーションやカフェ、つどいの場などの設置、運営支援を継続し、自主運営化を支援。また、引き続き、エリアの小中学校の児童生徒に認知症サポーター養成講座を提供し、若いうちから人権感覚教育に積極的に関与していく。 |
| <input type="checkbox"/> | ■ | 認知症予防、引きこもり予防の一環である居場所、高齢者、子育て中の方と赤ちゃんや障がい児・者の居場所づくりのモデル事業としての多世代交流カフェ「むうたんカフェ」を展開。引き続きカフェを盛り立てる出演ボランティア、お茶の提供をするボランティアを養成し、各町会など地域でカフェの運営が、コロナ禍中に感染予防や衛生に気を遣いながら、活発に行えるよう支援していく。 |
| <input type="checkbox"/> | ■ | 困難を抱える家庭への個別支援から、特殊詐欺や消費者被害防止、高齢者虐待防止、成年後見制度の活用などの権利擁護事業を区役所や関係機関と連携して啓発していく。エンディングノート「これから」の周知活用を図り、生きがいと自立した行き方を支援する。 |
| <input type="checkbox"/> | ■ | ボランティア活動が活発な地域性を活かして、コロナ禍中活動休止中の団体が活動を再開できるよう、健康と意欲を維持し続け、担い手を増やすなど地域活動交流事業でも工夫する。生活支援体制整備事業の協議体「ささえ愛のつどい」においても、地域特性をとらえた情報収集資料を提供したり、必要とされる支援策を試行していく。 |
| <input type="checkbox"/> | ■ | 地域ケアプラザの部屋を活用した「むうたん塾」を学童・学生の居場所として学習支援、生活支援の場としてさらに定着させる。教員OBや大学生ボランティアと協力し事業を充実させていく。子ども食堂等とも連携し、子育て支援事業としての定着を図る。 |
| <input type="checkbox"/> | ■ | コロナ禍中、今まで目標としていた人と人とのコミュニケーションのあり方を変えざるを得ない状況下、すべての事業において、ICT環境整備も進む中、ZOOMやWebなどの手法も取り入れ、人々を結ぶ方法を模索しながら、より豊かな地域のつながりを目指していく。 |

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

コロナ禍も4年目に入り、物価上昇・不景気も相俟って、地域住民の抑圧感・不安感、気力低下などは深刻である。ケアプラザで事業を行うと待ってましたとばかりに参加される一方、地域の担い手の高齢化も深刻。皆様の機運を高める事業を企画し、期待に沿った、感染拡大予防徹底し地域貢献を進める必要性を益々感じる。高齢者のみ世帯、単身高齢者の増加による困難家庭の相談が増加し、関係機関との連携の必要性も更に高まっている。新コミュニケーション手法の推進をしながら今後の地域福祉拠点としての役割を果たしていきたい。

区からのコメント

個別支援が複雑化多問題化している中、所内連携をはかりながら地域及び個別ケースに寄り添った支援を進めていただいています。
多職種で連携しての講座開催や、地域への出張講座など、地域のニーズに応じた工夫がされています。また、自主事業や住民活動支援から個別支援につながったり、自主事業やケアプラザのネットワークが個別支援の受け更に繋がっており、ケアプラザ全体として地域の方々の受け皿になり、信頼を得ていることが分かります。
ケアプラザが様々な役割、機関の方と連携・協働することによって地域が益々元気になるような取組を次年度も引き続きよろしく願いいたします。